

須賀の寺子屋 第3回中学生担当支援員ミーティング議事録

日時 2023年12月28(木) 17時30分～18時30分

会場 太洋中体育館会議室 対面のみ

担当者 セクションリーダー：雨宮(英語)、中里(数学)

数学担当支援員

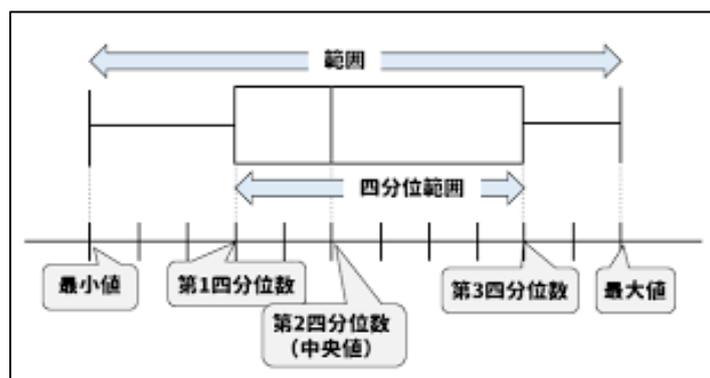
出席者 大野、仲野、柳田、清田、中里、門馬、茂木、平井 8名

検討課題 「箱ひげ図」の問題の対応について。

(1) 概要

四分位数、箱ひげ図は「箱」と「ひげ」によってデータのばらつきを示す図で、棒グラフ、折れ線グラフ、ヒストグラムと同様に、データの分布を確認する図です。

2012年に高校1年生の教科書に加わり、2021年に中学2年生の数学に移行し2022年の高校入試から出題され始めた。(福岡県は2年連続出題、神奈川県は今年初めて出題し東京都はまだ出題していません。)四分位数、箱ひげ図の問題を学校で習ったのは、現在30歳以下の人で、殆どの学習支援員や中学生の親もなじみがない数学の分野になります。



(2) 検討内容

今回は実際に高校入試で出題された下記の6問について解法を参加者で検討し理解を共有した。

問題1(青森県)データから四分位範囲を求める基本的な問題。

問題2(山梨県)データから四分位範囲と箱ひげ図の作成を求める問題。

問題3(福島県)ヒストグラムと箱ひげ図の関係を問う問題(やや難しい)。

問題4(茨城県)箱ひげ図より読み取れる事を問う問題。

問題5(三重県)データの一部が m , n なっていて、箱ひげ図から m , n の値を求める。又、データの小さいほうから6番目の数字として、ありうる数を箱ひげ図を基に考え、全て答えさせる

応用問題(やや難しい)。

問題6(神奈川県)データから該当する箱ひげ図を選ぶのと箱ひげ図から読み取れる事を問う問題。前半は基本問題。

(3) 検討結果

箱ひげ図の問題は、前半は正答率70%を超える設問が多く、部分点を取りやすいので生徒に基本的なことを教えて行くことにした。又、統計的な事項(ヒストグラムや箱ひげ図による解析)は入試でよく出題される分野で今後も注意し学習指導して行くことにした。

英語担当支援員

出席者 雨宮、伊藤、廣庭、草島、鹿子、高橋 6名

検討課題 「独自教材の活用について」 作成者の廣庭さんの説明が中心

1. 廣庭さんの説明ポイント

- (1) 生徒達が自習できることを意識して作成した。
- (2) 教科書を分りやすいように展開した。
- (3) リスニングも一部文字化を図った。
- (4) 特に動詞の理解を進めることを意識した。
- (5) 3年生の分は復習含め1年2年の内容も意識して載せている。
- (6) 教科書、教科書ガイドにQRコードでヒアリングできるようになっている。これを生徒達が知らず有効活用されていないのが残念。

2. 参加者の感想、意見等

- (1) 支援級の生徒達には、学習の時間にこの教材は丁度良い内容。(伊藤、草島)
- (2) 製本されたものを渡されると量が多すぎて生徒達は多分読もうとしないと思う。
その都度必要範囲の部分だけコピーして学習の方がベストだと思う。(自宅で勉強できる生徒は別だが) ➡ コピーしやすいよう製本されていない印刷物をクリアファイルに入れて用意します。(雨宮)
- (3) オンラインを活用して欲しい。これを印刷するだけでも多分大変な力が必要。
QRコードの利用等、この教材を有効活用する為にITを活用したらうまく行きそうな気がする。(鹿子、高橋) ➡ ITが得意でないので、清田さんと相談してみます。(雨宮)
- (4) とにかく国語力と英語の読みが最重要。(鹿子)

以上